パナソニック　エナジー株式会社　品質・環境センター品質技術部品質技術二課　選考理由

取り組みテーマ：未解決課題業務の生産性と質向上を両立する仕組みの構築
TQM 活動要素：情報の収集・分析と知識の蓄積・活用

パナソニック エナジー株式会社は，パナソニック ホールディングスの一員として，「未来を変えるエナジーになる。」というビジョンを掲げ，2022 年に事業会社化に伴い設立された．電池事業としては松下電器創業直後の 1923 年から開始し，100 年以上の歴史がある．事業会社化の前より，各事業部内で改善業務の取り組みを実施していた．ただし，より生産に直結する問題や緊急度の高い課題が優先されるため，難易度が高く，解決に時間のかかる慢性問題が残される傾向にあった．そこで 2024 年に事業部の慢性問題（意思をこめて未解決問題という）の解決を担う直轄組織である品質・環境センター品質技術部品質技術二課を設立した. 各事業部からの 40 歳未満の経験の浅い社員で構成されており, その使命は, 事業部の未解決問題を解決すること，そして将来を担う人材の育成である．本内容は未解決問題の改善業務の生産性と質を高めた活動の事例である．

第一の特徴は，未解決問題の課題解決のために，革新的な 6 つの業務プロセス完成度向上システム（課題解決業務プロセス，進捗管理グラフ，プロセス図解，データデザイン，課題解決業務テンプレート，アクティブ・ルート・マップ）を構築した取り組みである．特に革新的なシステムは，「6 つのエネルギーの出入りと人・環境／ユニット・部品の不安定要素を明記したデータデザイン」「成果に繋がらなかった取り組みも含めた足跡を残すアクティブ・ルート・マップ」「モノづくりの加工変化を設計図化したプロセス図解」である．これらは，熟練者などの暗黙知であった情報を，形式知化する取り組みであり，チャレンジ性のある取り組みである．

第二の特徴は，少人数チームによるマルチタスク・マルチアサインの業務遂行である．過去の未解決問題の要因分析より，シングルタスク・シングルアサイン（いわゆる属人的）では助け合う環境・方法がないことや業務標準などがうまく機能しないことなどが判明した．そこで．少人数チームによるマルチタスク・マルチアサインという取り組み方法を採用し，お互いの仕事を共有しサポートできる環境が構築できた．上述の業務プロセス完成度向上システムと合わせることで，課題解決経験の少ないメンバーでもそのプロセスに従い，課題解決ができるようになった．

第三の特徴は．小集団活動を用いて，システムの見直し・改善を実施し，継続的改善を可能としている点である．期末に実活動での気づきの振り返りを行い，課題解決業務テンプレートの見直しを行っている．またこの活動そのものも活動業務進捗管理グラフを用いて進捗管理を行い遅延傾向など早期に発見を可能にしている．これにより，困りごとの解決ができ，作成したプロセスの活用と継続的改善に繋がっている．

上記活動を通じて得られた成果として、プロジェクトの完遂件数について 2024 年 4 件に対し 2025 年は 8 件と大きく向上するなど具体的な成果を上げている．また、若手社員の人材育成が進み，改善活動推進体制や組織能力を備えつつあり，海外拠点への展開も期待できる．

以上により，パナソニックエナジー株式会社　品質・環境センター品質技術部品質技術二課は日本品質奨励賞 TQM 実践賞の授賞資格を備えていると判断する．